

川柳 さいたま



彼岸花

平成24年
10月号 (No.635)

日川協加盟

具象化と(1)(1)(1)

願法みつる

吟社の会員に映像川柳を能くする仲間がいる。彼の言。「川柳を映像に重ね合わせようとすると、例え心象句であっても映像化は出来る。しかし、句にマッチする映像が全く浮かばない川柳がある。それは言葉だけを羅列して、一見上手に見える句が多い。」つまり、彼の眼に具象的な構図が見えない句がある、と言うことのようなのだ。佳句には明確な構図が必要であると言うことなのかも知れない。

また別に、芸術写真を能くする仲間がいる。彼曰く。「狙ったポイントには写真の中央から外すのがコツである。」ポイントを僅かに外すことによって、必要な周囲が鮮明になり、背景までも見ることが出来ると言うことらしい。浅学な筆者には、絵画・映像や造形などの審美眼は無いが、たまたま川柳という文芸世界の隅っこで喘いでいる者として、二人の言葉が何故か心に引つ掛かるのである。

芭蕉翁の「いひおほせて何かある」と組み合わせると、川柳もまた一句に構図があり、読者や鑑賞者に想像の余地を与えてこそその文芸性なのかも知れない。換言すれば、具象化想像の可能性とでも言うのだろうか。

なお付言すれば、さいたま誌八月号から始まった雑詠欄巻頭作品の映像川柳は、右の仲間の作品である。果たして読者の皆さんは、どの様な感想を持たれるだろうか。

十月号 目次

| | | | |
|-----------------------|-------|----|----|
| 堅太郎句抄(十) | 願法みつる | 表紙 | 1 |
| 巻頭言 具象化ということ | | | 2 |
| 彩玉集 — 同人吟 | | | 5 |
| さいたまの柳人 ②9 長瀬久太郎 | | | 6 |
| 時空を超えて | | | 10 |
| 雑詠 | | | 10 |
| 映像コラボ | | | 17 |
| ティータイム | | | 18 |
| 七七句 | | | 21 |
| あの日あの時 | | | 22 |
| 拝啓川柳様 其の二 | | | 24 |
| 交替鑑賞 想いが広がる | | | 26 |
| 初歩添削講座「ゆっくり」 「雑詠」 | | | 30 |
| 題詠 「たつぷり」 宮本彩太郎 選 | | | 37 |
| 「だらだら」 織田 和子代選 | | | 38 |
| 「なかなか」 堀江太田史 選 | | | 39 |
| さいたま九月句会 | | | 40 |
| 吟行会ご案内 | | | 37 |
| 追悼文 岸忠夫さんと川柳 | | | 38 |
| 新同人紹介 加藤孤太郎 | | | 39 |
| 古丘の世界 文・今村 寿子 | | | 39 |
| インフォメーション | | | 40 |
| 編集さろん | | | 3 |
| 句会案内 | | | 4 |
| 表紙(題字・清水 美江 写真・千葉 古丘) | | | 表紙 |